

## 事業計画の概要

## 1. 全体計画

- 産業廃棄物の収集運搬を行う。
- 産業廃棄物の中間処分を行う。

## 2. 産業廃棄物の種類及び収集運搬量 単位 t/月

燃えがら	150
汚泥	1,000
廃油	1
廃酸	5
廃アルカリ	1
廃プラスチック類	1,700
紙くず	1
木くず	10
繊維くず	1
動植物性残さ	100
ゴムくず	70
ガラスくず	70
鉱さい	1
がれき類	20
ばいじん	250
廃蛍光管(ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、金属くず、廃プラスチック類)	1

## 3. 産業廃棄物の種類及び処分量 単位 t/月

## &lt;三凌愛川リサイクルセンター第1工場&gt;

汚泥(沈降分離・脱水)	200
廃プラスチック類(溶融)	18

## &lt;三凌愛川リサイクルセンター第2工場&gt;

汚泥(堆肥化)	100
木くず(堆肥化)	1
動植物性残さ(堆肥化)	150
動物のふん尿(堆肥化)	50

## &lt;三凌愛川リサイクルセンター第4工場&gt;

廃プラスチック類(選別・圧縮)	290
紙くず(選別)	1
木くず(選別・破碎)	9
繊維くず(選別)	1
ガラスくず(選別)	240
金属くず(選別)	150
がれき類(選別)	10
廃蛍光管(ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、金属くず、廃プラスチック類)(破碎)	1

#### 4. 収集運搬業務の具体的な計画

- 本社の所在する東京都、支社の所在する横浜市、川崎市、相模原市、厚木市及び近隣市町村の事業系の産業廃棄物を収集運搬する。

#### 5. 処分業務の具体的な計画

- 愛川支社に、産業廃棄物の中間処理施設として三菱愛川リサイクルセンター第1工場、第2工場、第4工場の3工場を設置する。
- 三菱愛川リサイクルセンター第1工場では、汚泥の沈降分離・脱水、廃プラスチック類（発泡スチロール）の熔融を行う。
- 三菱愛川リサイクルセンター第2工場では、汚泥・木くず・動植物性残さ・動物のふん尿の堆肥化を行う。
- 三菱愛川リサイクルセンター第4工場では、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、金属くず、がれき類の選別、木くずの破碎、廃プラスチック類の圧縮、廃蛍光管（ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず、金属くず、廃プラスチック類）の破碎を行う。

#### 6. 収集運搬業における環境保全対策

- 産業廃棄物の性状に適した車両を使用するとともに、シート掛けをするなど飛散防止対策・流出防止対策を講じる。
- 自動車Nox・PM法対策済みの車両を使用する。
- 収集運搬にあたってはエコドライブを推進する。

#### 7. 処分業における環境保全対策

##### ① 三菱愛川リサイクルセンター第1工場

- 沈降分離・脱水施設及び熔融施設は、屋内に設置。
- 沈降分離・脱水施設の設置場所には、アニコ脱臭装置を設置し、悪臭の発生を防止。
- 沈降分離・脱水施設では処理水を滅菌中和して、貯水タンクに保管し、場内の洗浄等に使用して施設内で循環させ、下水への排水は行わない。
- 熔融施設の排気ガスは、熔融機の熔融物出口に取り付けられた脱臭用活性炭で、臭気を吸着した後排出する。

##### ② 三菱愛川リサイクルセンター第2工場

- 堆肥化施設は屋内密閉型の構造となっており、発酵室及び製品置き場にはアニコ脱臭装置を設置し、悪臭の発生を防止。

##### ③ 三菱愛川リサイクルセンター第4工場

- 施設は、周囲にフェンスを設置してあり、必要に応じて散水をするることにより、廃棄物の飛散を防止する。
- 受け入れヤードの周囲にはグレーチングを設置して廃棄物の流出を防ぐとともに、沈砂槽・油水分離槽を設置して外部への廃棄物流出をさらに防止する。
- 破碎機、圧縮機は、三方が囲われ天井のある場所に設置し、騒音、振動が敷地境界で基準値以下になるようにしている。
- 蛍光管破碎機は、密封された機械の内部で破碎処理が行われ、付属する集塵機のろ布と活性炭フィルターで粉じんと水銀を除去する構造となっている。